

〔発言者〕 秋月辰一郎

〔発言年月日〕 1975年8月

〔生年、被爆地、職業など〕 1916年生まれ。長崎で被爆。医師。

〔内容〕

わたしは、「核兵器による戦争の抑止力でなく、ヒロシマ・ナガサキの人びとの叫びが核戦争を抑止している。『証言』という極めて素朴な、弱々しいような声が、核戦争の抑止力である」と何度か訴えたことがある。ベトナムの解放に今それを実感しているのである。

〔注〕

核兵器の使用が危惧され続けたベトナム戦争が終結した時期における、被爆者の証言の意義を確認した文章である。「ヒロシマ・ナガサキ 30年の想い」の一節。

(『広島・長崎 30年の証言(上)』広島・長崎証言の会編、未来社、1975年所収)